

総括質疑発言通告書

発言者氏名	藤野英明
発言の会議	令和8年10月 1日 予算決算常任委員会
答弁を求める者	市長

【件名及び発言の要旨】

Ⅰ 議案第93号 令和7年度横須賀市一般会計歳入歳出決算及び報告第32号 令和7年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率について

(1) 横須賀中央まちづくり株式会社の株式に係る財政的リスクの把握について

ア 令和7年度末の同社の財政状態と総務省の地方公会計の基準を踏まえ、本市が保有する株式の価値と、それに伴う財政的リスクをどのように評価していたのか。また、投資損失引当金の必要性について、どのように認識していたのか。その評価と判断の根拠を示されたい。

(2) 同社への貸付金の回収見込みと徴収不能引当金について

ア 本市は、令和7年度末の同社への貸付金残高のうち、どの程度を回収できると評価しているのか。その評価の前提と根拠を示されたい。

イ 本市は、同社への貸付金に係る徴収不能引当金について、過去の不納欠損率を用いるだけでなく、同社への貸付金の回収可能性を個別に検討しているのか。検討している場合はその結果を、検討していない場合はその理由を示されたい。

ウ 令和7年度末の同社への貸付金について、個別の回収可能性を踏まえて徴収不能引当金の必要性を判定し、回収が見込めない部分がある場合には、必要な額を計上すべきではないか。

(3) 令和7年度決算における貸付けに係る財政的リスクの把握について

ア 令和7年度決算に基づく将来負担比率の算定において、今回の貸付けに関する債務負担行為を算入対象外と判断した根拠となる、法令・算定基準の具体的な規定を示されたい。

イ 限度額2億6,000万円の債務負担行為について、令和7年度末の状況を踏まえ、本市は、翌年度以降にどの程度の貸付けが必要になると見込んでいたのか。同年度末までに実行した貸付けとは区別して、貸付必要額の見込みと、その算定の前提を示されたい。

ウ 令和7年度の財政運営に当たり、本市は、同社への既存の貸付金と、設定している債務負担行為に伴う財政的リスクを、それぞれどのように評価していたのか。評価の内容と根拠を示されたい。